

## 令和2年度刈谷市スポーツ推進審議会 議事録

### 1 日時及び場所

令和2年10月7日(水) 13時30分～14時50分

刈谷市役所 大会議室C

### 2 出席した委員 永田靖章、竹内晋岸、辻村享、鈴木裕子、太田秀樹、加藤晋也、廣住優子、山口博子、加藤京子(以上、敬称略)

欠席した委員 近藤俊行(以上、敬称略)

### 3 事務局 教育長、教育部長、スポーツ課長、課長補佐、業務係長、指導係長、普及係長、普及係担当者2名

### 4 議事

議題1 刈谷市スポーツ推進審議会会長の選出と職務代理者の指定について —資料1

議題2 第3次刈谷市スポーツマスタープランについて

(1) 概要

(2) 取り組み評価について —資料2・3・4

議題3 令和3年度事業計画について

(1) 刈谷市ホームタウンパートナー事業の取り組みについて —資料5

(2) 国際スポーツ大会等の誘致について

ア カナダ女子バスケットボール代表チーム事前キャンプについて —資料6

イ その他の国際スポーツ大会等について —資料7

議題4 その他

### 5 議事内容

議事進行：加藤スポーツ課長

○あいさつ

・金原教育長

- ・中学校の体育大会について、コロナの感染対策をしながら練習を重ね、無事開催をした。子どもが運動をするということは素晴らしいことだと改めて感じた。
- ・部活動では、春の市長杯大会や夏の選手権大会、そしてそれに続く西三河・愛知県・東海・全国大会もコロナ禍に影響により中止となってしまったが、3年生に最後の大会を経験させてあげたいという思いから、9月末から10月にかけて最後の大会を開催し、非常に感動的な大会となった。
- ・世界規模では、東京2020オリンピック・パラリンピックが延期となった。本市では、カナダ女子バスケットボールチームの事前キャンプを予定していたが延期となっている。
- ・そのほか、聖火リレー、大相撲刈谷場所、かきつばたマラソン大会も延期・中止となっているが、最近では少しずつ企業スポーツやプロスポーツが再開してきているので、このまま元

のように戻っていくことを願っている。

- ・本日の審議会では、昨年から10年計画で開始している第3次スポーツマスタープランの取組みのうち昨年1年間の評価を頂き、2年目以降の取組みへと繋げていきたいと考えているので、忌憚のないご意見をよろしくお願ひしたい。

議事進行：加藤スポーツ課長

議題1 刈谷市スポーツ推進審議会会長の選出と職務代理者の指定について

【事務局】 会長の立候補または推薦はありませんでしょうか。

【山口委員】 前年の会長であり社会体育に造詣が深く経験豊かな永田先生にお願いしたいと思ひます。

【事務局】 他にご意見はござひませんか。永田委員の会長就任で賛同いただける方は拍手をお願ひいたします。

【委員】 《拍手》

【事務局】 満場一致により永田委員に会長をお願ひいたします。永田会長より就任のごあいさつをお願ひいたします。

【会長】 こんにちは。コロナ禍で大変な時期でありますので、極力時間を割いて簡単にごあいさつさせていただきます。

本日は委員の皆様、公私ともに大変お忙しい中ご出席頂き本当にありがとうございます。スポーツ推進審議会は、法律で定められ全国に設置されています。刈谷市スポーツ推進審議会は、刈谷市のスポーツ推進計画であるスポーツマスタープランや、その他のスポーツ推進に関する重要な事項を調査・審議するために市の条例で定められて設置しているものです。

刈谷市では、昨年度からスポーツ振興の新たな指針となる第3次スポーツマスタープランを推進しております。10年ごとに作り直し、現在第3次プランに入って2年目ですので、本計画ができてからは22年目であります。

この条例に則り、本審議会では今後現行の第3次プランの進捗管理やスポーツ推進に関する全てをテーマとして進めていきます。本審議会では、広く市民の声を聞きながら、市民各種団体の代表としてそれぞれの立場から意見を出して頂いて、刈谷市のスポーツ振興に少しでもご協力頂けますよう、また活発な議論を頂けますことをお願ひ申し上げまして、簡単ではありますが私のあいさつとさせていただきます。

【事務局】 ありがとうございます。以降の進行は永田会長にお願ひします。

【会長】 職務代理者の指定ですが、スポーツ全般に研究をされている方がふさわしいと考えますので、鈴木委員に引き続きお願ひしたいと考えます。ご賛同いただけますでしょうか。

【委員】 《拍手》

【会長】 ありがとうございます。職務代理者は鈴木委員とさせていただきます。よろしくお願ひいたします。

議事進行：永田会長、説明者：西岳係長

## 議題2 第3次刈谷市スポーツマスタープランについて

### (1) 概要

#### 【事務局】第3次刈谷市スポーツマスタープラン概要版に沿って説明

【永田会長】概要版3ページに成人のスポーツ実施率の表について、2016年は刈谷市民のスポーツ実施率は44.6%であった。当初国の方針では、週1回以上のスポーツ実施率は50%を目指すこととあったが、その後国の指針が65%に改められた。刈谷市の実情から言えばもう少し数値目標を下げなければいけないが国の示した基準があるので、それを目指している。

### (2) 取り組み評価について

#### 【事務局】資料2・3・4を説明

【永田会長】ここでの説明が本日の審議会では非常に重要な部分であり、事務局が昨年の取り組みについて調査・評価し、今後の方向性を示したものである。

企業代表の委員様もいるので、知っている範囲でお答えいただきたい。企業体育館の借用が令和2年7月に終了したとあるが、市民がスポーツ活動をする場が不足しており、そうした理由から、企業の体育施設をお借りしているという状況であった。そのあたりについていかがお考えか。

#### 【加藤（晋）委員】

グラウンドや体育館など、今まででは時間帯によってはご利用頂いている例はあるが、直近で言えばコロナ禍の影響で福利厚生施設等については社員も利用できない。

#### 【永田会長】

コロナの影響が大きいということである。この問題が多少解決してれば、また刈谷市として使用することができる可能性もあるのか。

#### 【加藤（晋）委員】

可能性はある。

#### 【永田会長】

総合型地域スポーツクラブの代表である山口委員はいかがか。

#### 【山口委員】

市バドミントン連盟にも加入しており、企業の体育館（デンソー、アイシン、トヨタ車体など）を借りながら、本当に良い環境で活動してきた。最近ではウィングアリーナ刈谷や市体育館を中心に活動をしているが、ぜひまた企業体育館の借用を再開して頂いて、市民がスポーツをする環境が増えると良いと思うのでぜひよろしくお願ひしたい。

#### 【永田会長】

資料3「5ページ（2）参考数値 スポーツ行事の情報源」について、情報源の多様化もあるが、市民だよりの魅力の低下ともとれる（編集の仕方、記事の大きさなど）。市民だよりは市民のためのものであるため、マンネリ化を防ぎ、市民の目に触れるための工夫をし、有効に活用することが大切である。

また、情報機器の扱いに疎い人も多く、若い世代と違って、特に高齢者はSNSの活用が苦手な人も多い。したがって、情報発信の仕方をしっかりと考えていく必要がある。

そのほか、専門家としてスポーツと感染症対策についてなど、なにかご意見はないか。

#### 【辻村委員】

今年度のかきつばたマラソン大会について、慎重に検討を重ねたがコロナの終息が見えないということから今回は中止とさせて頂いた。

第3次プランの進捗管理については、今年はコロナの影響があったということがのちに分かるように記録をしなければならない。また、そんな中でもどうやって体を動かしていくか、家には体力が落ちてしまうのでそれを考えていかなければならない。

この冬は、インフルエンザとコロナが同時に流行してしまうと収拾がつかなくなってしまう可能性があるという医師会としても考えている。慢性疾患の患者や入院患者を預かりながら、発熱患者を診療するかかりつけ医は本当に大変になってくると思うので、健康管理・予防接種など、まずは病気にかからないための対策をしてほしい。

**【竹内委員】**

かきつばたマラソン大会をやめたときの決定基準はあるのか。次のイベントを考えるときに必要になってくると思う。

**【事務局】**

明確な数字的な基準は難しいが、かきつばたマラソン大会は例年2,000人前後の参加者があるため、刈谷市の参加者・会場規模でソーシャルディスタンスを保って開催すること、つまり参加者の安全を保って開催することは難しいという判断である。参加者を減らす、スタート時間をずらすなど方法はあるかもしれないが、運営方法なども総合的に判断して決定した。

**【竹内委員】**

例えば、市相撲連盟が大会を開催するにあたり、市から中止にしてほしいというような指導はあるのか。

**【事務局】**

主催者判断であり安全確保がクリアできているのであれば問題ないが、それが難しいようであれば考え直してほしい。市はあくまで施設を貸す立場であり、開催の最終判断は主催者である。人数制限など提示する基準は出ているが、開催してはいけない、というところまではいかないと考えているし、安全に開催できるのであればぜひやって頂きたい。

**【竹内委員】**

一般の方々がスポーツをするときはどうなのか。

**【事務局】**

ウィングアリーナ刈谷の例では、入館の際に検温・マスク着用をお願いしている。運動の際は外して頂いてもよいが、しっかりと安全対策をしたうえで施設を利用頂いているのが現状である。

**【永田会長】**

自治体としては、主催するものなどは責任を負わなければならないが、そのほかの主催のものについてはそれぞれが責任を持たなければならないと思う。

**【太田委員】**

「施策（4）ささえる人材の育成」の関係について、部活動は学校教育として大変意義があり、ここで力をつけてもっと高いレベルで活躍する子もいれば、幅広くスポーツを親しむ意味合いもある。現在は中学校の部活動で教員が顧問としてすべてに配置をされており、限られた時間の中で一生懸命指導にあたってくれているのだが、教員の多忙化もあり指導を地域の指導者に任せようという方向になっている。学校としては、スポーツ指導だけではなく健康管理等指導もあるので、今後も部

活動指導をしていくことは間違いないが、教員の指導では時間も限られる上に技術的な指導があまりできないので、今後は技術指導を中心に地域の人に入ってもらわなければならないのではないかと思う。第3次マスタープランが終わる頃には、おそらく部活動の在り方が大きく変わっていることが考えられ、ここに地域の人材がはいってこないとなれば部活動が衰退していくおそれがある。ささえる人材の掘り起こしを行い、刈谷市はスポーツのスペシャリストも多いと思うので、学校の部活動に入り込んで頂く工夫、人材バンクや総合型地域スポーツクラブの指導者の派遣など、人材を探していくことが必要だと思う。

**【永田会長】**

働き方改革の一環ということもある。部活動指導者について、地域でなんとかする方法を検討することが必要である。また、スポーツリーダー養成講座の方法を再検討したりすることも大切である。部活動にも、競技志向やレクリエーション志向などいろいろな狙いがあると思うので、それらに対応できるように、スポーツ協会や企業（引退後のトップ選手の活用）、総合型地域スポーツクラブなど、学校教育とスポーツの関係する部署等で連携し検討していく時代に入ったと思う。第4次プランのときにはこれらが盛り込まれて行かなければならないが、第3次プランの見直しを行うようであれば、そのときに盛り込めるものがあれば盛り込むことを考えておく必要がある。

**【竹内委員】**

ホームタウンパートナーの認知度が低いと思う。チーム名を知っていても、そのチームが刈谷市のホームタウンパートナーチームであることが浸透していない。チームのメリットはなにかあるのか。

**【永田会長】**

「チームを市民みんなで応援しましょう」というものであるので、非常に素晴らしいものであると思う。

**【事務局】**

チームには市のPRにご協力頂いている。市はチームを応援、例えば会場の利用調整などがあり、双方にメリットがある制度である。PRが不足していることはこちらも課題として認識しているので、手元にあるパンフレットもそうだが、どのように展開していくかということを考えていきたい。

**【竹内委員】**

認知度が低いということはおもたないと思うのでよろしくお願ひしたい。

**【永田会長】**

「みるスポーツ」として一人でも多くの市民に試合を見てもらうため、日本を代表する選手、チームを応援して頂く、そしてそれが「ささえるスポーツ」にも繋がると思う。

**【加藤（京）委員】**

パンフレットは市民だよりに配布されているのでしょうか。QRコードで一つ一つのチームをみるので、大変良いと思う。

キラキラ教室などの取り組みについては、FC刈谷の選手が幼稚園を回ったりしたところを見たことがある。そうした活動があると、次は選手を応援に試合に行こうということにも繋がるので、こうした取り組みが違うスポーツにも広がっていくとよいと思う。

**【永田会長】**

認知度について、一番安上がりなものは口コミ、評判作りである。パンフレットに配布も一つの方法だが、印刷代がかかる。そうした取り組みも行いながら評判作りをするを行い、少なくとも

ここのメンバーはオピニオンリーダーとして、評判作りのリーダーシップをとる役割を果たすことが大事である。

**【辻村委員】**

さきほど太田委員から部活動指導者のことでご意見があったと思うが、ささえる人材のことについて、ボランティア（無料）で依頼をすることは余裕がある人も多くないと思うので、報酬の整備や事故責任の保証などバックアップの体制を整えてあげるとよいのではないかというのが一点目である。

続いて愛知教育大学について、地元にある有名な大学であるが、現役の学生は年齢も近く、指導力については劣るかもしれないが、間近で実技を実践できる人が学校訪問をすることは魅力的なことであると思うので、大学生の活用方法についても考えて頂くとよいと思う。

**【金原教育長】**

外部指導者の話について、最近文部科学省から通知があり、部活動（土日）に関しては地域の人をお願いをできないか、そのような内容であり、令和5年度くらいから実施してほしいというものであった。先日の校長会で情報提供し、今後は教育長会でも議題としていくものであると考えている。現在、外部指導者については6中学校のうち、一部ではあるが弓道・剣道・卓球・陸上等で外部指導者を導入している。これらを拡大していくことも大事だが、その前に人材をしっかりと確保していきたいと思っている。

愛知教育大学の学生については、不登校の子どもたちの心の教室相談員という制度があり、学校によっては、朝の部活動や体育の指導などで不登校の子どもの面倒を見ながら単位が取れるなど、少しずつ連携がとれてきている。大学生には現場で経験を積んで、勉強をして良い先生になって頂きたいという思いもある。大学と刈谷市で連携をとっていこうという話はしっかりしているので、徐々にではあるが着実に進めていきたい。

**【永田会長】**

部活動は学校教育の一環であるので、競技スポーツとしての指導だけになってしまっはいけない。部活動は文化活動などもあるわけなので、全体として考えていかなければならない。

以上、ここでの意見を踏まえて、評価シートを事務局ととりまとめる。

議事進行：永田会長、説明者：西岳係長

**議題3 令和3年度事業計画について**

(1) 刈谷市ホームタウンパートナー事業の取り組みについて

**【事務局】資料5を説明**

(2) 国際スポーツ大会等の誘致について

(ア) カナダ女子バスケットボール代表チーム事前キャンプについて

**【事務局】資料6を説明**

(イ) その他の国際スポーツ大会等について

**【事務局】資料7を説明**

**議題4 その他 (その他議題なし)**

**【 閉 会 】**